

展示場での展示物解説 —博物館実習報告①—

田中 麻奈美^{*1)}, 柘植 紀節^{*2)}

概要

平成 27 年度の博物館実習の課題の 1 つとして、実習生が展示場において来館者にとって分かりにくいと感じた展示を選択し、その展示物をより理解してもらえるよう解説を行った。本稿では、各実習生の実践・考察について報告する。

1. はじめに

1-1. 目的

博物館実習の課題として、来館者に対して各自がテーマ決定した展示物の解説を行った。

その目的は、展示解説による来館者の反応・質問等を参考にして、身を以て展示の改善・実践を経験することである。

1-2. テーマ設定及び解説方法

実習の前半に館内見学を行い、実習生が自身の得意分野の展示の中から、来館者から見て分かりにくいと感じた展示物を選択し、テーマ設定を行った。

各自テーマと決めると、来館者に対して解説の実践・改善を行った。

1-3. 展示解説とその担当者

以下表 1 に解説を行った展示物及びその担当者を示した。各章においてその実践内容について報告する。

表 1 展示解説と各担当者

実習生名	テーマ	各章
田中 麻奈美	望遠鏡	2章
柘植 紀節	宇宙線、スパークチェンバー	3章

2. 「望遠鏡」の解説(田中)

2-1. 目的

科学館 4 階にある展示場は、科学の原理やしぐみを、身体を使って実感する展示が多くある。実際に

何かを押したり回したりすると、電気が点いたり物が動いたりする装置は人気であったが、望遠鏡の展示というのは、少しのぞいてみて何か見えたけどそれで終わり...という来館者が目立った。そこで、望遠鏡をのぞいてもらい、何が見えたのか、どう見えたのか、また、屈折望遠鏡と反射望遠鏡の違いなどを理解し、少しでも望遠鏡に興味関心を持ってもらうことを目的とし、解説を行った。



図 2-1 望遠鏡の展示

2-2. 実践と結果

まずは望遠鏡をのぞいてもらい、何が見えるのか、その見ている写真はどこにあるのかを聞いてみた。大半の方は目の前のガラスに貼っている写真を指さしたが、実は向こう側の遠くに貼ってある写真だと伝えたと、多くの方が驚かれた。特に反射望遠鏡は、望遠鏡の横からのぞくため、かなり不思議に感じられる方が多かったように思う。

次に反射望遠鏡であれば、像がどのように反

*大阪市立科学館 平成 27 年度博物館実習生
¹⁾和歌山大学教育学部、²⁾奈良女子大学理学部

射して、どのように拡大されるのかを図を用いて説明し、横に展示してある天体望遠鏡の凹面鏡を見てもらった。凹面鏡には拡大された自分の姿が映されていた。反射望遠鏡では凹面鏡が用いられており、焦点に像ができて、接眼レンズで拡大していること、これを用いて小さな天体も観察できることを理解してもらった。

また、種類の異なる望遠鏡として屈折望遠鏡も見てもらった。屈折望遠鏡では色収差が起こることなども説明し、それぞれの望遠鏡の特徴を理解してもらった。

2-3. 考察

解説がない場合、大半の方がのぞいて終わり、という現状に対し、見ているものがどこにあるのかを教えるだけで望遠鏡の性能を感じてもらいきっかけを作ることができた。望遠鏡の構造については大人の方のほうがより理解し、興味を示してくれたように思う。

また、隣に展示してある凹面鏡については、ただの鏡だと思われる方が多かったので、反射望遠鏡と関連した解説板などの必要も感じられた。



図2-2 解説の様子

3. 「宇宙線、スパークチェンバー」の解説(柘植)

3-1. 現状

初日午後は、自由に展示場を見学して来館者にとって分かりにくいと思われる展示物を探した。また、自分の専攻分野である天文分野の知識を生かせる展示を探した。そこで、「宇宙とその発見」がテーマの4階の宇宙線の展示に着目した。展示物の配置やなじみのない展示内容のために、素通りしていく人や理解できずに通り過ぎてしまう人が多いという現状だった。

3-2. 目的

私は、大学で高エネルギー宇宙物理学を専攻しておりシンチレーションカウンターなど高エネルギー物理学の検出器について勉強したことがあったので、

その知識を活かして解説を行いたいと考えた。

そこでこの展示で次の3つのことを知ってもらい理解してもらうことを目的とした。

- ・宇宙線というものの存在
- ・宇宙線とは何か
- ・スパークチェンバーの仕組み、凄さ



図3-1 スパークチェンバーの展示

3-3. 方法

展示を見てくださっている来館者に宇宙線とは何か、という説明を行い、スパークチェンバーを見てもらった。小学生などの子どもたちにはスパークチェンバーが光るのを見てもらい興味を持ってもらうことから説明を始めた。来館者の反応を見ながら、詳しい検出器の説明を追加したりした。

3-4. 結果と考察

スパークチェンバーの実物が展示してあるので、直感的に理解してもらいやすかった。しかし、宇宙線とスパークチェンバーの説明を理解してもらえてもそこからの広がりを持たせることがなかなかできなかった。そこで途中からは宇宙線が実際に活用されている事例の紹介もすることにした。内容を一つ追加するだけで、来館者の反応が良くなったことを感じる事ができた。

可視的にわかりやすいスパークチェンバーの展示を活用して子どもから大人にまで、「宇宙線というものの存在」を伝えることが出来たと感じた。また、来館者の年齢や条件に応じて「宇宙線とは何か」ということを大まかにではあるが伝えることが出来たと思う。一方、「スパークチェンバーの仕組み、凄さ」については、興味を持ってくれた人や質問をしていただいた方には説明して伝えることができたが、年齢の低い子どもたちにはほとんど伝えることが出来なかった。難しい原理でも直感的に理解できるようなイラストを作成するなどの工夫があれば、より良い説明ができたと思う。

展示の解説を通して、来館者によって説明の仕

方を変えること、具体的な表現や目に見える直感的な説明、実感できるような内容を織り交ぜて伝えていくことが大事だと感じた。また、展示を伝えるためには自分自身が展示内容に関する知識、理解を十分に持っていることが重要だと感じた。



図3-2 解説の様子

4. 総括

本課題では、展示に関する専門的な知識の他にも、来館者とのコミュニケーション力や、展示をわかりやすく説明する表現力も必要とされた。自分が持っている知識を、どのように説明すれば来館者にうまく伝わるのかをよく考える必要がある課題であった。専門的すぎる内容であると、小さな子どもや、あまり難しい内容まで求めている来館者は困ってしまうし、簡単すぎる内容であると、展示の解説が物足りなく感じてしまう来館者もいる。解説板を置くのではなく、面と向かって直接解説をする利点は、それぞれの来館者に合った解説をすることが可能であることと感じた。そのために、1つの展示に関していくつかの解説の仕方や、幅の広い知識を備えておくことも重要だと感じた。

この課題で学んだ、来館者の立場になって考えてみる、ということは、これから学芸員の仕事以外にも多くのことに活かせることだと考える。この課題、実習で学んだことを今後もしっかり活かしていきたい。

5. 謝辞

科学館の学芸員の方をはじめ、多くの方のご協力を頂いて、貴重な実習を経験することができました。この貴重な経験を次に活かし、つなげていきたいと思っております。本当にありがとうございました。